

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)広優グループホーム織月の郷1号棟・2号棟
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市川西町
記入者名 (管理者)	牧之内いくみ
記入日	平成 20 年 8 月 23 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		地域の中でその人らしく生活できることをこれからも意識し、入居者の自己決定を尊重して利用者中心のケアを心掛けていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員全員が理念に従って取り組んでおり、できていない仲間にはその都度注意し合い確認している。又、そのような雰囲気作り心掛けています。	ケア提供の際、それがホームの理念に適しているかどうかを見つめ直しその人にとって最良の支援ができていくか意識していきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族には入所時に十分な説明をして共感や理解を得ている。また、地域の方々に年四回ひまわり新聞でホーム便を発行している。	今後も運営理念や活動報告をとおり、地域に広めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	今年も五月五日に手作りのけせん団子を配りました。誰でも尋ねやすいように施錠も行わず開放に努めています。	避難訓練の際、ご近所の方が手伝いに来て下さったが、普段から立ち寄られることがない。興味や関心があまりないように感じている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	運営推進会議を通して参加したい意思を伝えているが、地域自体があまり活発でないようだ。	近所の高校や幼稚園の運動会や、市内で開催されている音楽会などは可能な限り、毎年参加させてもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の環境をより良くする為に、職員全員で美化活動(ゴミステーションの清掃)に努めている。		市役所担当職員・民生委員と連携をとり、要望があれば積極的に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を謙虚に受け止め、統一したチームケアが提供できるように努力している。		自己評価や外部評価により自己ケアを振り返り、見直し、質の向上に努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所担当職員や入居者・その家族に参加を促し、二ヶ月に一回定期的に会議を開き、外部評価の結果も報告し意見交換できている。		今後も外部評価を通し事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合う機会にして、サービスの向上に活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社長は市役所にも再々足を運んでおり、電話等で日頃から市の担当者とは連携をとっている。		色々な機会にこれからも気軽に連絡を取り合い、相談や協力をお願いしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	この事業や制度についての学習はできていない。		各職員が研修に積極的に参加し学習していきたい。また、市役所よりパンフレットや担当職員より説明を受ける機会を設けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権を尊重し虐待は行われぬよう話し合い防止に努めている。		常に多様性と本人の意向や満足を第一に考えるケアに努めると共に、職員の心身のケアにも配慮し虐待の防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を心がけ管理者・職員と重複し確認をとることもある。いつでも利用者・家族が意向を言えるような環境作りを心がけている。</p>	<p>利用者・家族に対し些細な事でも報告・連絡を実施し、信頼関係を築き思い・考えをいつでも言えるような雰囲気而努力していきたい。退所の際、特に細かい心配りをし、その後の関わり大切に面会にも行ったり連絡をとっていききたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見・不満・苦情等は利用者の言葉や態度から察し、連絡帳などで職員全体で把握し的確な対応に努めている。</p>	<p>居室にて話しやすい雰囲気に心がけ、意見・不満・苦情など引き出し、管理者を中心に問題点を改善できるよう統一したケアに努めていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には受診や薬取りをお願いし、面会になるべく多く来て頂くようにしている。また、来所持には必ず心身状態・日常生活の様子を報告できている。緊急時には随時、電話報告し家族・スタッフで適切に対応できている。</p>	<p>今後も報告・連絡・相談を密に行い、安心していただける様に心がけていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口の確保は掲示している。不満や苦情は全くないということはないと思われるので、随時声かけし確認している。</p>	<p>話しやすい雰囲気を心がけ、素直に感謝の気持ちをもって受け止めていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議を毎月行い、意見や提案を聞いて運営に反映させている。また社長との面談も行っている。</p>	<p>年に数回食事会を設け、社長・管理者とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気に努めている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の調整も無理なく行っており、状況の変化に応じて対応ができています。</p>	<p>勤務変更時、利用者の見守り・ケアが十分に行えるように調整していく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃から利用者さんとコミュニケーションを図っており、異動の際でも支障のないよう心がけている。</p>	<p>異動時は不安を与えないよう、声かけ・コミュニケーションを図り親しみを感じてもらえるようにしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講する場合は事前に勤務の調整等を行い無理のない体制を作っている。又、介護福祉士の資格をとるための研修を深めているスタッフも数名いる。		今後も研修に積極的に参加しケアの質の向上になるよう努力していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員それぞれが他施設の知人と交流があり、情報交換して質の向上に努めている。		管理者を中心に他施設へ訪問し、交流を深めていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の心のケアを大切にし個別的に話しを聞いて、助言や指導を行い問題解決に努めている。		働きやすい環境作りに心がけ、親睦を深める事ができるよう職場以外でも職員間の交流が図れるよう食事会など実施していきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は常に職員の業務や悩みを把握できている。各職員が資格取得し知識・技術の向上を見守っている。		専門職の意見を受け、ケアの質の向上を目指しミーティングなどを開催し学習していきたい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の目線になり居室でゆっくりと傾聴し、気持ちを受容できている。		今後も傾聴し、その人の思い、考えを大切にしていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時間は家族に合わせバタバタする事なく、ゆっくりとした雰囲気できている。		家族のペースに合わせ傾聴し問題解決・意向に沿うように努めていきたい。また、いつでも相談してもらえようように対応に心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との信頼関係を築きながら現状に応じた適切なサービスが提供できるように努めている。アセスメントを十分に行い選択肢を提案し、本人・家族にとって最良のサービスを提供できている。		相談を受け、本人とそれを取り巻く環境(家族・背景)など十分にアセスメントしサービス提供・対応していきたい。又、介護保険以外のサービス(ボランティア活動・学生の慰問など)についても計画し支援していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学や遊びに来てもらえるようにしている。本人が安心して生活できるように、家族・職員と相談協力を得ている。		本人・家族にとって安全・安心な暮らしとなるよう心がけていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共に励まし合いながら、今という時を大切に生活を楽しんでいる。本人の人生観と経験を大切にし、自尊心に配慮できている。		今後も介護するされる関係ではなくて、家族のように接していきたい。利用者の思い・日常生活環境を大切にしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所を本人と共に歓迎し円満な関係と本人を支えていくための協力関係を大切にしている。家族の来所時、本人の心身状態・日常生活の状況を説明し、温かく見守っている。		いつでもいつまでも家族とホームの両方で本人を温かく見守れるよう支援し続けていきたい。本人・家族共に支援できるように配慮していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方に住む家族からも贈り物が多く届く、その都度電話で本人の心身の状況報告をして、ご本人と会話もしてもらっている。行事や来所時、コミュニケーションを図っている。		今後も良い関係が築いていけるように報告・連絡・相談を随時行っていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の来所時、またいつでも来てもらうように促し、コミュニケーションを図る機会を設けている。		本人に行きたい場所を尋ねるがはっきりしない事が多い。意向を確認し、思い入れのある場所への外出など可能な限り実施していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の交流が図れるよう機会を設け、互いを思い・協力できるように見守り・支援できている。		交流の機会を設けお互いが楽しく過ごせるよう見守り支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他のグループホームへ移られた後も面会に行ったりして、とても喜ばれ感激された事もあった。		可能な限り交流を持ち末永く関わっていききたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り意向を確認し、自立支援に努めている。		今後も本人の思い、考えを大切に、尊重していききたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族との面談時、情報収集を行い、生活歴・暮らし方など把握に努めている。		今までの生活習慣が維持できるように環境を提供していききたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	十分な情報収集を行いアセスメントをすることにより、本人像を把握できている。		本人の状態を把握する為、十分な情報収集・アセスメントを実施していききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの専門職から意見を受け、最良のケアができています。		最良のケア・統一したケアができるよう、今後も意見交換を随時行っていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に合わせ本人の意向、家族・専門職より意見を受け、現状に合った計画書を作成している。		状態に合わせそれぞれの関係者より、意見を受け見直しをしていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルの記録・日常生活の様子を観察し情報を得て、モニタリング・見直しにいかしている。		今後もモニタリングを行い見直しを行い、状態に合ったケアを提供していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診など都合により家族が困難な場合、代行するなど柔軟に対応している。		本人・家族を支援していくために、柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の方を呼び避難訓練や、学生の方々の慰問、体験学習、近所の方のボランティアも4年近く続いている。		開かれたグループホームでありたいと思い外部との関わりを重視している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態に合わせ福祉タクシーや福祉用具のサービスを行い、安心して生活できるよう支援している。		今後必要があれば入居者の状況や希望に応じて支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通し交流できている。		今後も定期的・必要に応じて随時意見交換して実施していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望による主治医に定期的に受診している。受診については家族と連絡し、柔軟に対応している。		体調不良の時はスタッフも同行し、ホームでの生活状況などを医師に説明し情報提供できている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医などから認知症についての説明を受け、本人の状態について相談できている。定期的に主治医の診察を受け適切な治療を受けることができている。利用者によっては病院受診はスタッフが心身状態を把握している為、同行する場合もある。		主治医・家族と連絡を取り、落ち着いて安心した生活ができるよう支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員による健康状態の把握・管理ができている。ホーム内に3人の看護師が在職し健康管理など行っている		随時看護職と相談して、迅速・適切な対応をしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も職員による見舞いを行うと共に病院の相談員と情報交換を行っている。回復状況を詳しく聞く事や退院時の指導を受ける事で安心して退院できるような環境作りを提供している。病院の医療ソーシャルワーカーと連絡・相談しながら退院に向けての支援をしている。		情報交換を随時行い、安心して生活できるよう話し合っていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の事業所の対応については入所時にも説明しているが、本人の状況を見ながらスタッフ全員で確認しながら家族や主治医と話し合っ対応する。		入居者の状態の報告・連絡は家族の来所持、または、電話報告しその都度検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期について本人・家族と十分に話し合い方向性を確認している本人の心身状態に合わせ支援できている。家族や医療関係者と連携を取りながら職員全体で話し合い、常に最良の対応を考慮していきたい。		その人らしく生活していけるように状態を把握し、日常生活を支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を行い、今までケアした事を継続できるように心がけている介護者の都合で転居された事例があるが、情報提供を行い本人に負担にならないよう努めた。		特にご本人の好きな物・好きな事を情報提供し、かなえてもらえるよう転居先へお願いした。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の立場に立って誇りやプライバシーを損ねないよう、常に敬う気持ちを忘れずに命令語や指示語にならないように心がけている。	利用者の思いを大切にし言動に注意していきたい。また、関係者以外には個人情報をお口外しないようにしていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	リラックスした状態で傾聴し、話しやすい環境に努めている。理解しやすいように声かけし意思表示しやすいように取り組んでいる。	本人が自己決定できるように配慮し、安心して暮らしていけるようにしていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の待つケアを心がけ、自己決定を尊重している。	利用者が常に主人公であることを忘れずに支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が自分で洋服を選び着用するなど、自己決定に努めている。散髪は本人・家族の希望に努めている。	本人・家族と相談し、希望にそえるようにしていきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を聞いてもほとんどの人が、「なんでんよかが」で終わってしまうが、菜園野菜を取りに行ったり味見や調理の手伝いもできる人は職員と一緒にいる。	本人のできる能力を見出し職員と一緒にいけるようにしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的にお酒・タバコを好む人はいない。お酒は時期に応じて希望があれば提供している。また、飲み物・おやつなどは定期的に提供し、その他に食事の摂取状況など考慮し促している。	本人の希望があれば気持ちを大切に、家族・管理者と相談していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	陰部の皮膚症状や不快感を与えないで気持ちよく過ごせるようにオムツの使用をできる限り避け、定期的・随時トイレ誘導し排泄を促している。		失敗しても自尊心に配慮して対応し、できるだけオムツを使用することなくトイレで排泄を促していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日浴室は開放しており、ほとんど毎日入浴される。また、今までの生活習慣に合わせていつでも入浴できるようにしてある。安心して気持ちよく入浴できるよう職員が見守り・介助して事故防止に努めている。		入浴をゆっくりと楽しめるようにスタッフの見守りや介助を行い、安心できるようにしていきたい。入浴中は会話・歌など行いコミュニケーションを図り楽しく過ごせるように心がけていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、起床・就寝は何時でも良い。気持ちよく寝れるように設置してある扇風機やエアコンで室温調整し快適な環境に配慮している。		本人の希望に合わせて気持ちよく過ごせるように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味・楽しみごとなど、生きがいを見出し継続できるように心がけている。それぞれの心身状態に合わせて支援できるように配慮している。本人を理解しその人らしく生活できるように心がけているが入居者全員ができていないわけではない。		ささいなことでもいいので、その人らしさをもっと追及し感謝される喜びや生きる張り合いを見出せるように支援していく。本人の心身機能を把握し、能力をいかした役割を見出せるようにしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族・職員が行っている。日常生活に必要な物は家族・職員に頼んでいる。		職員と一緒に買い物に行った時、お金を渡し支払いをしてもらうこともある。本人の負担にならないよう配慮し買い物も楽しんでもらいたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候を考慮し、常に外出することで気分転換を図っている。季節の外気を感じられるようにドライブ・散歩など、できる限り多くの機会を設けている。		いつでも外出できるように開放しており、その時の気持ちを大切にドライブ・散歩など実施していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族へは外出・外泊など自宅の馴れ親しんだ環境で、できる限り一緒に楽しい時間を過ごせるよう促している。時間のある家族は実施できている。施設では職員と共にドライブ・外出など随時機会を設けている。		今後も家族へ無理の無い程度に外出・外泊の機会を設けられるように促していきたい。施設では個別・集団で随時外出し気分転換活動を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、いつでも使用できる。家族・知人より電話があれば、その都度とりついでいる。		今後も継続し、本人・家族が安心して生活できる心がけていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所時、ホール・居室にて利用者を中心に会話し楽しく過ごしている。家族・知人には、いつでも来てもらえるように随時声かけしている。		家族・知人がいつでも気軽に来所できるよう職員の対応・雰囲気作りに心がけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を中心に勉強会を実施し、利用者の思い・考えを大切にケアに取り組んでいる。		拘束することなく自由な生活を心がけていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけたことはない。いつも開放的である。職員は来所者・入居者の出入りを自由にして、その把握にも心がけている。夜間は施錠し外出を控え安全配慮に努めている。		利用者がぶらりと出て行かれても職員と一緒に行動し把握に努め、安全で自由な暮らしを支援していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状態・所在を把握し、安全に過ごせるよう配慮に心がけている。		その人らしい生活を心がけ、プライバシーに配慮しながら日常生活の把握をしていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握してそれぞれ物品を職員が管理している。使用時はその都度渡し見守りを行っている。また、倉庫は施錠し事故のないよう努めている。		その人の心身の状態を把握し、能力に応じた対応をしていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの疾病・心身状態を各職員が把握し互いに確認する事で事故がないよう心がけている。転倒など起こった場合は速やかに管理者・家族へ連絡・報告し医療機関へ受診するなど対応できている。		その人の状態を考慮し、個別に見守り・介助を実施し事故防止に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急士による講習は職員全員受講していて、急変・事故発生時は適切な対応ができる。		緊急時にあわてることなく適切な対応・処置ができるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力をもらい、夜間想定避難訓練が実施できた。また、介護保険法に基づいた計画で定期的実施できている。		地域住民との交流を図り、緊急時いつでも多くの人々の協力を得られるようにしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	心身状態を考え起こりうる事故・リスクについて家族と話をしている。事故予防をすると共に、その人らしい生活を損なわないようなケアに努めている。		今後も家族の来所持、心身の状態・日常生活の様子を報告しその人に合った生活ができるよう対応策を話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い健康状態を把握し、異常の早期発見に努めている。異常時は管理者・家族へ連絡し病院受診など適切な対応ができている。		看護職と話し合い適切な対応をしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに閉じてあり、いつでも見ることができ確認している。また、誤薬がないよう二人以上の職員で薬を整理・確認し、事故防止に努めている。日常生活の中で心身の状態を観察し薬の効果を確認している。		本人による管理は困難な為、今後も職員による管理を実施していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の疾病を理解すると共に、水分補強・体操・散歩など促し予防に取り組んでいる。		日頃から予防に努めているが、数日間排便がない・腹部症状を訴えるようであれば、医師の指示を受け対応していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。また、動作に障害がある場合、介助や本人が実施後、確認している。		清潔保持に努めていくと共に発赤・腫脹などの症状がないか確認していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理を毎月測定し食べる量を毎日チェックしている。栄養士の指導を受けバランスの良い摂取を心がけている。なるべく野菜を中心とした献立にし、バランスよく提供できるように配慮している。副食は食べやすいように一口大・刻みにするなど、一人ひとりの状態に合わせている。		必要に応じ水分摂取量もチェックしているが、今後も栄養摂取や水分補給に努めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	他入居者への感染が考えられる疾患は契約により家族の協力を得て自宅療養してもらっている。		他入居者へ感染がないよう対応していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの徹底と共に調理で使用するまな板や包丁・布巾など消毒液を使用し衛生管理に努めている。		安全・安心した食生活が提供できるよう衛生管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを使用し季節の花を植えている。玄関内は整理整頓・掃除を行い安全・安心して気持ちよく出入りできるように心がけている。また、入居者さんを写真で紹介し外出での様子を掲示している。玄関先にはスロープ・手すりも設置しており車椅子利用者・高齢者など安心して来所できるようにしてある。		気軽に来所できるような職員の対応に心がけ、玄関・ホール内の清潔に努めていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁に手作りの壁画等楽しんでもらっている。又、音や照明も快適に過ごせるように調整し配慮している。		利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、居心地の良い共同空間を提供していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・いすなどホール内に2ヶ所設置しており、それぞれいつでも使用できるように整えている。また、畳の空間もあり落ち着いて過ごせるように配慮している。		環境を整え安心して、落ち着いた生活ができる空間作りに心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、家具や馴染めの品を自由に持ち込めるようにしている。なるべく自宅と変わらない環境を整え、落ち着いて過ごせるようにしている。		その人らしい居室になるように落ち着いた雰囲気を作り支援していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、窓の開閉、換気扇を使用し、部屋の換気に心がけている。季節によりエアコンで温度調節して快適に過ごせるようにしている。		利用者の希望を確認し、自然の空気で大丈夫であれば窓を開け扇風機を使用するなど対応する。また、季節によりエアコンを使用し温度調整するが、身体に負担がないようになるべく室外との温度差が大きくならないように心がけている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・ホール内の各所に手すりを設置し、安全・安楽な起立・移動ができるようにしている。いすは安定感のある物を使用している。		心身状態・残存機能を活用し自立した生活が営めるよう、環境の改善・福祉用具の改善に努めていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で、できる事・できそうな事を見出しスタッフが見守り一緒に行い、自立支援に努めている。		今までの生活を維持できるよう日常生活の中に取り入れ、職員が一人ひとりの能力に合わせ見出し支援していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外への出入り口にはスロープ・手すりが設置しており、安全・安心して外出できるようにしてある。芝生の広場では、食事・散歩などの気分転換活動ができるように整備されてある。		外でも過ごしやすい季節では、芝生の広場で園児や学生など招待し楽しく過ごせる機会を設けていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

\* スタッフは常に尋ねる言葉かけを心がけ～ですか？ どうしますか？ 等と利用者の自己決定を待つケアを心がけている。 \* スタッフが楽しく仕事が出来ないと利用者はもっ

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		地域の中でその人らしく生活できることをこれからも意識し、入居者の自己決定を尊重して利用者中心のケアを心掛けていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員全員が理念に従って取り組んでおり、できていない仲間にはその都度注意し合い確認している。又、そのような雰囲気作り心掛けています。	ケア提供の際、それがホームの理念に適しているかどうかを見つめ直しその人にとって最良の支援ができていくか意識していきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族には入所時に十分な説明をして共感や理解を得ている。また、地域の方々に回覧板でホーム便を発行している。	今後も運営理念や活動報告をとおり、地域に広めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	今年も五月五日に手作りのけせん団子を配りました。誰でも尋ねやすいように施錠も行わず開放に努めています。	避難訓練の際、ご近所の方が手伝いに来て下さったが、普段から立ち寄られることがない。興味や関心があまりないように感じている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	運営推進会議を通して参加したい意思を伝えているが、地域自体があまり活発でないようだ。	近所の高校や幼稚園の運動会や、市内で開催されている音楽会などは可能な限り、毎年参加させてもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ゴミステーションの利用にあたり、分別と出し方の留意点を守り、地域に快く受け入れられる努力を続けている。</p>		<p>今年度は生ゴミが、カラスの被害にあり、ステーション周囲に散乱して不衛生の状況が続いた為予防用の網を工夫した事で改善できた。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の結果を謙虚に受け止め、統一したチームケアが提供できるように努力している。</p>		<p>自己評価や外部評価により自己ケアを振り返り、見直し、質の向上に努めていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市役所担当職員や入居者・その家族に参加を促し、二ヶ月に一回定期的に会議を開き、外部評価の結果も報告し意見交換できている。</p>		<p>今後も外部評価を通し事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合う機会にして、サービスの向上に活かしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>社長は市役所にも再々足を運んでおり、電話等で日頃から市の担当者とは連携をとっている。また、市の研修等には、積極的に参加している。</p>		<p>色々な機会にこれからも気軽に連絡を取り合い、相談や協力をお願いしていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要性のある利用者は現在はいないが、県の研修には定期的に参加している。</p>		<p>各職員が研修に積極的に参加し学習していきたい。また、市役所よりパンフレットや担当職員より説明を受ける機会を設けていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者の人権を尊重し虐待は行われないう話し合い防止に努めている。また、関連する研修を受講し、他のスタッフに報告する事で、知識を共有している。</p>		<p>常に多様性と本人の意向や満足を第一に考えるケアに努めると共に、職員の心身のケアにも配慮し虐待の防止に努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を心がけ管理者・職員と重複し確認をとることもある。いつでも利用者・家族が意向を言えるような環境作りを心がけている。		利用者・家族に対し些細な事でも報告・連絡を実施し、信頼関係を築き思い・考えをいつでも言えるような雰囲気而努力していきたい。退所の際、特に細かい心配りをし、その後の関わり大切に面会にも行ったり連絡をとっていききたい。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の意見・不満・苦情等は利用者の言葉や態度から察し、連絡帳などで職員全体で把握し的確な対応に努めている。		居室にて話しやすい雰囲気に心がけ、意見・不満・苦情など引き出し、管理者を中心に問題点を改善できるよう統一したケアに努めていく。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	事前に体調を家族に伝え、受診は協力を頂いている。家族が都合がつかない場合は受診後報告している。面会時は近状を報告している。		各担当者が定期的に現状報告を行う事で情報交換が密になり、家族とスタッフの信頼関係が構築できる。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	相談窓口の確保は掲示している。不満や苦情は全くないということはないと思われるので、随時声かけし確認している。		話しやすい雰囲気に心がけ、素直に感謝の気持ちをもって受け止めていきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員会議を毎月行い、意見や提案を聞いて運営に反映させている。また社長との面談も行っている。		年に数回食事会を設け、社長・管理者とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気に努めている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務の調整も無理なく行っており、状況の変化に応じて対応ができています。		勤務変更時、利用者の見守り・ケアが十分に行えるように調整していく。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	日頃から利用者さんとコミュニケーションを図っており、異動の際でも支障のないよう心がけている。		異動時は不安を与えないよう、声かけ・コミュニケーションを図り親しみを感じてもらえるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが研修を受講する場合は事前に勤務の調整等を行い、無理のない体制を作っている。		今後も研修に積極的に参加しケアの質の向上になるよう努力していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員それぞれが他施設の知人と交流があり、情報交換して質の向上に努めている。		管理者を中心に他施設へ訪問し、交流を深めていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の心のケアを大切にし個別的に話しを聞いて、助言や指導を行い問題解決に努めている。		働きやすい環境作りに心がけ、親睦を深める事ができるよう職場以外でも職員間の交流が図れるよう食事会など実施していきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は常に職員の業務や悩みを把握できている。各職員が資格取得し知識・技術の向上を見守っている。		専門職の意見を受け、ケアの質の向上を目指しミーティングなどを開催し学習していきたい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の目線になり居室でゆっくりと傾聴し、気持ちを受容できている。		今後も傾聴し、その人の思い、考えを大切にしていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時間は家族に合わせバタバタする事なく、ゆっくりとした雰囲気できている。		家族のペースに合わせ傾聴し問題解決・意向に沿うように努めていきたい。また、いつでも相談してもらえようように対応に心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との信頼関係を築きながら現状に応じた適切なサービスが提供できるように努めている。アセスメントを十分に行い選択肢を提案し、本人・家族にとって最良のサービスを提供できている。		相談を受け、本人とそれを取り巻く環境(家族・背景)など十分にアセスメントしサービス提供・対応していきたい。又、介護保険以外のサービス(ボランティア活動・学生の慰問など)についても計画し支援していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学や遊びに来てもらえるようにしている。本人が安心して生活できるように、家族・職員と相談協力を得ている。		本人・家族にとって安全・安心な暮らしとなるよう心がけていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	読書家の本人が、感動した本を紹介されると、必ず目を通し、感想を返す方法をとっている。		今後も介護するされる関係ではなくて、家族のように接していきたい。利用者の思い・日常生活環境を大切にしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に現状報告を行う中で、面会時の一緒に過ごす時間を多く作って頂けるように努めている。		いつでもいつまでも家族とホームの両方で本人を温かく見守れるよう支援し続けていきたい。本人・家族共に支援できるように配慮していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	現状を重視した意見をさげ、家族のつながりから、冷静に判断してどの方法で支援が必要かを検討している。		今後も良い関係が築いていけるように報告・連絡・相談を、随時行っていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の来所時、またいつでも来てもらうように促し、コミュニケーションを図る機会を設けている。		本人に行きたい場所を尋ねるがはっきりしない事が多い。意向を確認し、思い入れのある場所への外出など可能な限り実施していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の交流が図れるよう機会を設け、互いを思い・協力できるように見守り・支援できている。		交流の機会を設けお互いが楽しく過ごせるよう見守り支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他のグループホームへ移られた後も面会に行ったりして、とても喜ばれ感激された事もあった。		可能な限り交流を持ち末永く関わっていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難しい言葉ではなく、利用者が暮らしの中で常日頃口に出している希望を把握する事を努めている。		今後も本人の思い、考えを大切に、尊重していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前のサービス提供者からの情報提供及び家族からの情報提供から、その人らしい暮らしを理解把握に努めている。		今までの生活習慣が維持できるように環境を提供していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい生活が送れるように各スタッフが把握している情報を、共有してサービスを提供している。		本人の状態を把握する為、十分な情報収集・アセスメントを実施していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成前にスタッフの意見を収集し、家族の意向を確認したうえで援助方針を検討している。		最良のケア・統一したケアができるよう、今後も意見交換を随時行っていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	受傷による入院、その後のATLの低下等に伴い、変化を把握した新たなプランを作成している。		状態に合わせてそれぞれの関係者より、意見を受け見直しをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録として支援経過を作成し、実践やプラン見直しに役立てている。		今後もモニタリングを行い見直しを行い、状態に合ったケアを提供していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診など都合により家族が困難な場合、代行するなど柔軟に対応している。		本人・家族を支援していくために、柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の方を呼び避難訓練や、学生の方々の慰問、体験学習、近所の方のボランティアも4年近く続いている。		開かれたグループホームでありたいと思い外部との関わりを重視している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態に合わせ福祉タクシーや福祉用具のサービスを行い、安心して生活できるよう支援している。		今後必要があれば入居者の状況や希望に応じて支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通し交流できている。		今後も定期的・必要に応じて随時意見交換して実施していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診時は家族へ病状を報告し、家族から、かかりつけ医へ病状報告、診療依頼をお願いしている。		体調不良の時はスタッフも同行し、ホームでの生活状況などを医師に説明し情報提供できている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医などから認知症についての説明を受け、本人の状態について相談できている。定期的に主治医の診察を受け適切な治療を受けることができている。利用者によっては病院受診はスタッフが心身状態を把握している為、同行する場合もある。		主治医・家族と連絡を取り、落ち着いて安心した生活ができるよう支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医受診後の訪問診療は連携を図ることで、利用者の病状の早期改善につながっている。		随時看護職と相談して、迅速・適切な対応をしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も職員による見舞いを行うと共に病院の相談員と情報交換を行っている。回復状況を詳しく聞く事や退院時の指導を受ける事で安心して退院できるような環境作りを提供している。病院の医療ソーシャルワーカーと連絡・相談しながら退院に向けての支援をしている。		情報交換を随時行い、安心して生活できるよう話し合っていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の事業所の対応については入所時にも説明しているが、本人の状況を見ながらスタッフ全員で確認しながら家族や主治医と話し合っ対応する。		入居者の状態の報告・連絡は家族の来所持、または、電話報告しその都度検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期について本人・家族と十分に話し合い方向性を確認している本人の心身状態に合わせ支援できている。家族や医療関係者と連携を取りながら職員全体で話し合い、常に最良の対応を考慮していきたい。		その人らしく生活していけるように状態を把握し、日常生活を支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を行い、今までケアした事を継続できるように心がけている介護者の都合で転居された事例があるが、情報提供を行い本人に負担にならないよう努めた。		特にご本人の好きな物・好きな事を情報提供し、かなえてもらえるよう転居先へお願いした。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人の立場に立って誇りやプライバシーを損ねないよう、常に敬う気持ちを忘れずに命令語や指示語にならないように心がけている。</p>	<p>利用者の思いを大切にし言動に注意していきたい。また、関係者以外には個人情報をお口外しないようにしていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>リラックスした状態で傾聴し、話しやすい環境に努めている。理解しやすいように声かけし意思表示しやすいように取り組んでいる。</p>	<p>本人が自己決定できるように配慮し、安心して暮らしていけるようにしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活のリズムを大切にしてスタッフの言動で中断する事のないように配慮している。</p>	<p>利用者が常に主人公であることを忘れずに支援していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>衣類の選択に時間を要する利用者には、ゆったりと対応することで、スタッフが選択を強要する事のないように努めている。</p>	<p>本人・家族と相談し、希望にそえるようにしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を聞いてもほとんどの人が、「なんでん よかが」で終わってしまうが、菜園野菜を取りに行ったり味見や調理の手伝いもできる人は職員と一緒にいる。</p>	<p>本人のできる能力を見出し職員と一緒にいけるようにしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>日常的にお酒・タバコを好む人はいない。お酒は時期に応じて希望があれば提供している。また、飲み物・おやつなどは定期的に提供し、その他に食事の摂取状況など考慮し促している。</p>	<p>本人の希望があれば気持ちを大切に、家族・管理者と相談していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	陰部の皮膚症状や不快感を与えないで気持ちよく過ごせるようにオムツの使用をできる限り避け、定期的・随時トイレ誘導し排泄を促している。		失敗しても自尊心に配慮して対応し、できるだけオムツを使用することなくトイレで排泄を促していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日浴室は開放しており、ほとんど毎日入浴される。また、今までの生活習慣に合わせていつでも入浴できるようにしてある。安心して気持ちよく入浴できるよう職員が見守り・介助して事故防止に努めている。		入浴をゆっくりと楽しめるようにスタッフの見守りや介助を行い、安心できるようにしていきたい。入浴中は会話・歌など行いコミュニケーションを図り楽しく過ごせるように心がけていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、起床・就寝は何時でも良い。気持ちよく寝れるように設置してある扇風機やエアコンで室温調整し快適な環境に配慮している。		本人の希望に合わせて気持ちよく過ごせるように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味・楽しみごとなど、生きがいを見出し継続できるように心がけている。それぞれの心身状態に合わせて支援できるように配慮している。本人を理解しその人らしく生活できるように心がけているが入居者全員ができていないわけではない。		ささいなことでもいいので、その人らしさをもっと追及し感謝される喜びや生きる張り合いを見出せるように支援していく。本人の心身機能を把握し、能力をいかした役割を見出せるようにしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族・職員が行っている。日常生活に必要な物は家族・職員に頼んでいる。		職員と一緒に買い物に行った時、お金を渡し支払いをしてもらう事もある。本人の負担にならないように配慮し、買い物も楽しんでほしい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候を考慮し、常に外出することで気分転換を図っている。季節の外気を感じられるようにドライブ・散歩など、できる限り多くの機会を設けている。		いつでも外出できるように開放しており、その時の気持ちを大切にドライブ・散歩など実施していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年度は、認定申請は利用者2名は、自分で役所で手続きする事ができた。ふるさと訪問の機会になった。		今後も家族へ無理の無い程度に外出・外泊の機会を設けられるように促していきたい。施設では個別・集団で随時外出し気分転換活動を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、お礼状の代筆を行っている。家族への定期的な電話連絡を勤めている。		今後も継続し、本人・家族が安心して生活できる心がけていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所時、ホール・居室にて利用者を中心に会話し楽しく過ごしている。家族・知人には、いつでも来てもらえるように随時声かけしている。		家族・知人がいつでも気軽に来所できるよう職員の対応・雰囲気作りに心がけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を中心に勉強会を実施し、利用者の思い・考えを大切にケアに取り組んでいる。		拘束することなく自由な生活を心がけていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけたことはない。いつも開放的である。職員は来所者・入居者の出入りを自由にして、その把握にも心がけている。夜間は施錠し外出を控え安全配慮に努めている。		利用者がぶらりと出て行かれても職員と一緒に行動し把握に努め、安全で自由な暮らしを支援していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状態・所在を把握し、安全に過ごせるよう配慮に心がけている。		その人らしい生活を心がけ、プライバシーに配慮しながら日常生活の把握をしていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握してそれぞれ物品を職員が管理している。使用時はその都度渡し見守りを行っている。また、倉庫は施錠し事故のないよう努めている。		その人の心身の状態を把握し、能力に応じた対応をしていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの疾病・心身状態を各職員が把握し互いに確認する事で事故がないよう心がけている。転倒など起こった場合は速やかに管理者・家族へ連絡・報告し医療機関へ受診するなど対応できている。		その人の状態を考慮し、個別に見守り・介助を実施し事故防止に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急士による講習は職員全員受講していて、急変・事故発生時は適切な対応ができる。		緊急時にあわてることなく適切な対応・処置ができるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力をもらい、夜間想定避難訓練が実施できた。また、介護保険法に基づいた計画で定期的実施できている。		地域住民との交流を図り、緊急時いつでも多くの人々の協力を得られるようにしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	心身状態を考え起こりうる事故・リスクについて家族と話をしている。事故予防をすると共に、その人らしい生活を損なわないようなケアに努めている。		今後も家族の来所持、心身の状態・日常生活の様子を報告しその人に合った生活ができるよう対応策を話し合っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い健康状態を把握し、異常の早期発見に努めている。異常時は管理者・家族へ連絡し病院受診など適切な対応ができている。		看護職と話し合い適切な対応をしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに閉じてあり、いつでも見ることができ確認している。また、誤薬がないよう二人以上の職員で薬を整理・確認し、事故防止に努めている。日常生活の中で心身の状態を観察し薬の効果を確認している。		本人による管理は困難な為、今後も職員による管理を実施していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の疾病を理解すると共に、水分補強・体操・散歩など促し予防に取り組んでいる。		日頃から予防に努めているが、数日間排便がない・腹部症状を訴えるようであれば、医師の指示を受け対応していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。また、動作に障害がある場合、介助や本人が実施後、確認している。		清潔保持に努めていくと共に発赤・腫脹などの症状がないか確認していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理を毎月測定し食べる量を毎日チェックしている。栄養士の指導を受けバランスの良い摂取を心がけている。なるべく野菜を中心とした献立にし、バランスよく提供できるように配慮している。副食は食べやすいように一口大・刻みにするなど、一人ひとりの状態に合わせている。		必要に応じ水分摂取量もチェックしているが、今後も栄養摂取や水分補給に努めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	他入居者への感染が考えられる疾患は契約により家族の協力を得て自宅療養してもらっている。		他入居者へ感染がないよう対応していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの徹底と共に調理で使用するまな板や包丁・布巾など消毒液を使用し衛生管理に努めている。		安全・安心した食生活が提供できるよう衛生管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを使用し季節の花を植えている。玄関内は整理整頓・掃除を行い安全・安心して気持ちよく出入りできるように心がけている。また、入居者さんを写真で紹介し外出の様子を掲示している。玄関先にはスロープ・手すりも設置しており車椅子利用者・高齢者など安心して来所できるようにしてある。		気軽に来所できるような職員の対応に心がけ、玄関・ホール内の清潔に努めていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁に手作りの壁画等楽しんでもらっている。又、音や照明も快適に過ごせるように調整し配慮している。		利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、居心地の良い共同空間を提供していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・いすなどホール内に2ヶ所設置しており、それぞれいつでも使用できるように整えている。また、畳の空間もあり落ち着いて過ごせるように配慮している。		環境を整え安心して、落ち着いた生活ができる空間作りに心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、家具や馴染めの品を自由に持ち込めるようにしている。なるべく自宅と変わらない環境を整え、落ち着いて過ごせるようにしている。		その人らしい居室になるように落ち着いた雰囲気を作り支援していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、窓の開閉、換気扇を使用し、部屋の換気に心がけている。季節によりエアコンで温度調節して快適に過ごせるようにしている。		利用者の希望を確認し、自然の空気で大丈夫であれば窓を開け扇風機を使用するなど対応する。また、季節によりエアコンを使用し温度調整するが、身体に負担がないようになるべく室外との温度差が大きくならないように心がけている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・ホール内の各所に手すりを設置し、安全・安楽な起立・移動ができるようにしている。いすは安定感のある物を使用している。		心身状態・残存機能を活用し自立した生活が営めるよう、環境の改善・福祉用具の改善に努めていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で、できる事・できそうな事を見出しスタッフが見守り一緒に行い、自立支援に努めている。		今までの生活を維持できるよう日常生活の中に取り入れ、職員が一人ひとりの能力に合わせ見出し支援していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外への出入り口にはスロープ・手すりが設置しており、安全・安心して外出できるようにしてある。芝生の広場では、食事・散歩などの気分転換活動ができるように整備されてある。		外でも過ごしやすい季節では、芝生の広場で園児や学生など招待し楽しく過ごせる機会を設けていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の健康状態や心理状態を十分に把握し、可能な限り外出を取り入れ（外食や手作り弁当を持参し）気分転換がいつでも図れている。\*入居者に対して否定的な先入観は持たずに